

など、切る。四代は行光天正三年二月日又は加州住藤原行光と切る。これにて跡を絶つたもの、如く、新刀初期の行光は絶無である。別に近江大掾藤原行光延寶三年二月日於越中富山作など、切るものがあるが、これは越中清光の一族半右衛門といふものである。

**ユキヤマコウザエモン 行山康左衛門** 加賀藩の歩横目で、祿五十俵を受けた。康左衛門は小川忠篤等と交つたが、必ずしも同主義ではなかつた。然るに元治元年七月前田慶寧の退京した時、近習用人山森權太郎の處置を責め、將に不穩の舉動あらんとしたので、十月逼塞を命ぜられた。後又慶應二年慶寧の上洛した時、潜行して小松の旅館に就き上書したが、直に金澤に送還せられてその家に劊し、次いで公事場の縮所に移された。明治元年大赦令によつて前罪を赦され、姓名を松平義國と改め、二年土籍に復し祿を給せられたが、久しからずして歿した。

**ユキヤマタカヨシ 行山孝由 通稱榮次郎** 主計・勝彌由一郎。寶曆七年新番に列し、十三年新知百五十石を得て表小將に進み、天明二年御使番となつて五十石を増し、同年御横目に轉じ、三年五月八日流刑を命ぜられ、四年四月廿一日能登島曲村に發足、俸十五人扶持を受け、六年五月八日配所御免となつた。

**ユキヤマデンエモン 行山傳右衛門 慶長** 七年前田利長に仕へ、祿三百石を受け、寛永十一年歿した。その嫡系は、三代傳右衛門正徳元年歿し、子なくして斷絶したが、支族は世々藩に仕へた。

**ユキヤマナガタカ 行山長孝 通稱主馬** 新右衛門。實は杉本四郎右衛門の二子で、行山

傳右衛門に養はれたもの。初め慶長五年新知百石を受け、十九年小將頭として大坂陣に従うたが、その組の中に關番のあつた故を以て改易せられた。因つて長孝は奥村因幡の陣に寄つて、十二月四日の攻撃に活動し、凱旋の後復仕するを得、又翌年の役に二九丸で首級二を獲、元和二年加恩を併せて二百石となつた。寛永中歿。

**ユギウシヨウニン 遊行上人 金澤の時** 宗寺院は玉泉寺(初淨禪寺)のみであるから、相模藤澤の遊行上人が巡錫する時は、必ずここに淹留布教する例であつた。その文献に見えるものは、寛永五年に第三十五代法爾の來たのを初とし、寛文十一年に第四十一代南門、元祿元年に第四十三代尊眞、同十一年に第四十六代尊證、正徳三年に第四十九代一法、享保十三年に第五十代快存、延享元年に第五十一代賦存、明和九年に第五十三代尊如、寛政五年に第五十四代尊祐、文化十二年に第五十五代一空等があつた。此等の上人に對しては藩の待遇極めて懇切で、必ず使者を派して米銀を贈進する例であつた。

**ユグチトウクロウ 湯口藤九郎 諱は一重。** 藩の老臣本多氏に仕へて足輕に班した。明治四年十一月廿三日故主本多政均の仇菅野輔吉を殺し、五年十一月四日自殺を命ぜられた。享年三十一。

**ユサカゲミツ 遊佐景光 通稱孫太郎。** 續光の孫で、盛光の嫡男。天正五年上杉氏に質となつて越後に去つた。荒山合戦記に、天正十年温井景隆等が能登に侵入した時、遊佐河内守のあるのはかの孫太郎の後身ではあるまいか。

**ユサクラウド 遊佐藏人 遊佐續光の子。** 藏人父の害せられた後所々に隠れ、遂に紺屋の奴となつて居たのを、長連龍の侍女松枝が發見して告げた。連龍乃ち彼が怨敵續光の裔ではあるが、又正しく己の甥たるを以て、伴ひ來りてその子好連に扶持せしめ、好連の死後に及んで藏人に百石を、その母に二百石を興へた。母子の歿後二人の知行を合はせて藏人の子治太夫に興へ、治太夫の子は百石を受けて宇野傳内と稱した。

**ユサソウエン 遊佐宗圓 畠山氏の重臣。** 實名不詳。栗棘庵文書天文二十年七月廿五日附のものに、遊佐美作守續光の前に連署して遊佐信濃入道宗圓の名が見える。恐らくは續光の先代であらう。

**ユサツグミツ 遊佐續光 通稱美作。** 能登畠山氏の臣。その諱は天文十四年畠山義續襲封の後に襲いだのであるから、續光が遊佐一族の統領であつた時代を察せられる。十九年以降續光は温井紹春の勢力と衝突し、廿二年加賀に退いて再入國の策を講じたが、弘治元年漸く歸ることを許された。是より先天文二十年義續は家を義綱に譲つたが、やがて義綱に非行が多かつたので、永祿八年の交續光等は之を放逐して子義隆を擁立し、天正二年義隆も亦續光の爲に毒殺せられて、その子春王(又は春丸)が襲いだ。春王は世に謂ふ義春である。次いで五年上杉謙信の來つて七尾城を攻めた時、續光は諸將と共に防戦したが、九月遂に謙信の勸誘に従うて内應し、長續連・綱連等一族を害して落城の止むを得ざるに至らしめた。戦後續光はその孫孫太郎景光を買

とし、河田長親に託して越後に至らしめ、己

も亦かの國に赴いて謙信に謁したが、謙信は續光が長氏の深仇なるを以て、能登に歸るの危険を思ひ、暫くその地に留らしめた。かくて六年三月に至り、續光は再び舊里に入つたが、八年温井景隆の降を織田信長に容れ、九年三月信長が菅屋長頼・福富行清・前田利家を派して政を掌らしめるに及び、多年の罪科を遁れ得ざるを知つて逐電し、遂に鳳至郡二石村の狂言師翁新五郎の家に潜匿した。長連龍乃ち之を求めて、續光の子盛光・盛光の次子十松・三男鶴松・續光の次子伊丹孫三郎・孫三郎の男某・遊佐長門・片山三郎兵衛・奥田帶刀左衛門光宗を獲、彼等を七尾なる池田の館に刎首した。

**ユサヒデモリ 遊佐秀盛 畠山義總の臣。** 通稱孫右衛門。上杉家文書中にその名が見える。

**ユサモリミツ 遊佐盛光 通稱孫太郎。** 四郎左衛門。初諱義房。美作續光の嫡男。弘治二年當時越中に逃竄してゐた父を誅めて畠山義綱の許に復歸せしめた。時に盛光十六歳であつた。天正五年父子共に上杉謙信の勸誘に應じて長氏一族を殺し、七尾城を陥落せしめたが、長連龍が織田信長の後援を得て勢を復するに及び、九年六月父と共に鳳至郡櫛比庄二石村狂言師翁新五郎の家に匿れたるを捕へられ、七尾池田館に於いて刎首せられた。

**ユザンイン 融山院 金澤野田寺町に在つて、圓通山と號し、曹洞宗に屬する。元和九年融山泉祝が横山左衛門の下邸に建立し、寛文七年州屋の時今の地に移つた。融山は松山寺の開山で、當寺をその隱居としたものである。**